

祖父はつまらない人？

いなべ市立藤原中学校2年

高田 鈴奈

私には、今年七十七歳になる祖父がいます。私の家から歩いて三分ぐらいのところに祖母と二人で暮らしています。両親は仕事で帰りが遅い日が多いため、私と妹は祖父の家で毎日夕食を食べさせてもらっています。祖父は元高校教師で、今は、畑仕事をしないときは本を読んで過ごしていることが多いです。そんな祖父ですが、数年前から耳の聞こえが悪くなっていました。今は補聴器をつけていますが、それでも周りが騒がしかったり、早口で話されたりすると聞き取れず、会話に入れないことがあるそうです。

ある日の夕食のときです。私、妹、祖母の三人での会話が盛り上がって、つい早口で話してしまいました。すると、

「なあ、今、何の話しとんのや。」

と祖父に聞かれました。私は話を遮ぎられたような気がして、つい

「じいじには関係ない。」

と冷たく言ってしまいました。そんなことが今までに何度もありました。その度に、自宅に帰ってから少し言い過ぎたなと反省するのですが、別の日にまた同じように冷たく言うのです。

こんなことを繰り返したくないと思い、祖父の話を聞いてみることにしました。すると、祖父の口から出てくる話は昔話ばかり…。ちっともおもしろくありません。私が話し役でも、聞き役でも、祖父と心穏やかに会話を楽しむことはできないのだと感じて、私はだんだんと祖父と距離を取るようになっていきました。

そんなある日、私は母に連れられ、日本国憲法について学ぶ講演会に祖父もいっしょに行きました。三人で二時間ぐらい資料映像を観たり、講演を聞いたりしました。帰りの車の中では祖父と母が、これからの憲法の在り方や、どうしたら平和な世界が創れるのかということ話を合っていました。そのときの祖父はとてもじょう舌でした。私はとても驚きました。つまらない昔話しかしなくて、会話をしようとしてももうまくいかない人＝祖父であった私の考えが、現代や未来の話もして楽しそうに話せる人＝祖父と、その印象が、がらっと変わりました。

さらに、憲法を使ってLGBTQの人達をもっと生きやすい社会が創れるのではないか、などと新しい考えを持っていました。今までいかに私が祖父のことを理解していなかったのか、いえ、理解しようとしていなかったのかを思い知りました。年をとっているし、耳も遠い。それだけの理由で、私が勝手に祖父を「つまらない人」と決めつけていたと痛感しました。

例えば私がゆっくりと話したり、昔話にならないような話題を振ったりすれば、祖父も私も楽しく会話ができたはずなのです。そのことに気付いてからは、祖父にたくさん話しかけるようにしました。しばらく経った頃、祖父が

「最近すーちゃん、優しくなったなあ。」

と祖母に話している声が聞こえてきました。今まで距離を取ろうとしていたことも、会話の中で私がいらいらしていたことも全部、祖父は分かっていたのだとそのとき気付きました。私は、祖父への申し訳ない気持ちで胸がいっぱいになり、祖父ともっともっと、いろいろなことを話していこう、祖父と毎日楽しく過ごしていこうと心に決めました。

このような自分自身の経験から、私は高齢者と若者がお互いを理解し合える社会について考えるようになりました。SNSの中では、「ジジイ」「ババア」「老害」などという、高齢者に対する心ない言葉が飛びかっています。一方で、「今の若者は…」「俺が若かった頃は…」と言う高齢者の方もいます。それではお互いを理解し合うことなどできません。かつての私と祖父のように距離が離れていくだけです。そうではなく、自分から歩み寄って話しかけ、自分にはない考えを知ろうとすることが大切だと思うのです。

私は祖父と話すようになって、自分の考えに深みが増したように感じています。祖父という人と過ごせる時間は永遠ではありません。その時間の中で、たくさん楽しい話をし、祖父の考えを、祖父という人を知るために、私は今晚も祖父に話しかけます。